

「ふくしまに来て、見て、 感じるスタディツアー」

Bグループ

鈴木美穂・費田冬華・水谷優里佳・吉崎瑠衣・平木沙享・神谷碧惟

目次

- 1. 本ツアーの行程と振り返り**
- 2. 課題解決のための情報発信**
- 3. 総括**

1日目

1. 福島県環境創造センター交流棟
コミュタン福島
2. 昼食「おもてなし女子駅弁」
3. Jヴィレッジ
4. 夜ノ森さくら並木
5. 小高ワークスペース
6. ツアー1日目の振り返り・議論

2日目

1. レナトス相馬ソーラーパーク
2. (一社) そうま食べる通信講話
3. 和田観光苺組合苺狩り体験
4. 昼食「御食事処 たこ八」
5. 福島県庁 ツアー振り返り・報告会
6. コラッセふくしま

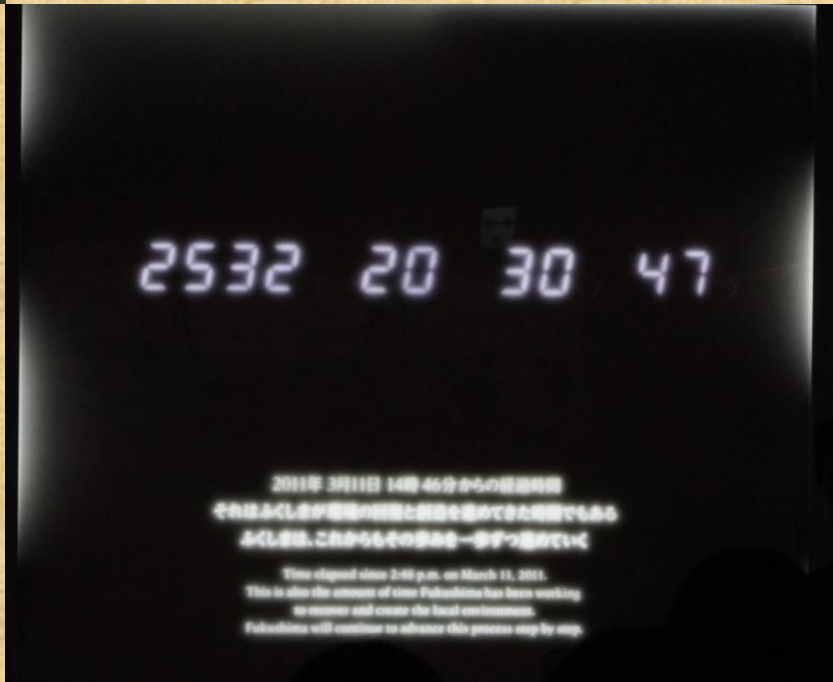
1 日 日



再生可能
エネルギー

放射線

福島県
環境創造センター
交流棟
コミュニティ福島



風化防止

福島県環境創造センター交流棟 コミュニティ福島

【概要】

東日本大震災、及びそれに伴う津波被害や原子力災害の記録を振り返ると共に、復旧・復興、そして未来に向けて、環境回復と環境創造を進める

「ふくしま」の現状を学ぶことができる施設。震災発生からの経過時間を数える時計など特徴的な展示がある。

【発見・考察】

- ・放射線のブースにて、食品の放射性物質モニタリング動画を視聴したが、米の全量全袋検査など徹底した自主検査が行われており、問題なく食べることができるのだと分かった。
- ・データを基に復興を知ることができ、もう一度時間をかけて見学をしたいと感じた。

美味しい ふくしま

【概要】

『ふくしまの12の愛、つめました』
がコンセプトの、福島県産の食材が味わえるお弁当。
製造者は株式会社福豆屋で、
郡山市富久山町で製造されている。

【発見・考察】

- ・ どの具も美味しく、また食べたいと思いました！！
- ・ 量も適量であり、様々な種類を少しずつ堪能できて魅力的だった。



おもてなし
女子駅弁

【概要】

震災に伴い、福島第一原子力発電所の事故収束の対応拠点として使用され、営業は休止しているが、

2018年夏に再オープンする。

施設面積は東京ドーム約10個分で、天然芝ピッチや人工芝ピッチ、ホテルやプールを備えた大規模なトレーニングセンターである。



Jヴィレッジ



【発見・考察】

- ・ 充実の設備と適度な気候でサッカーの練習はもちろん、サークルの合宿などにも打って付けの場所である。
- ・ 震災への対応から復興を踏まえ、未来の第一歩を現在進行系で歩んでいることを実感した。

**復興の
最前線**

夜ノ森 さくら並木

未だ



【概要】

約1500本の桜がL字型に続く桜のトンネルであり、浜通りを代表する桜の名所として知られている。

震災前には、毎年春に「夜ノ森桜祭」が開催され、出店が立ち並んだ。

また、全国各地からの花見客によって宴が開かれたり、夜にはライトアップがされるなど、盛り上がりを見せていた。

【発見・考察】

- ・ 現在その道の通行は規制されていることや今なお除染作業中であることが車窓から伺えた。
- ・ 「夜ノ森桜祭」の開催時には、是非足を運び、直接この桜たちを目に焼き付けるべきだと感じた。

小高ワーカーズベース 事業その①

【概要】

“若い人が帰ってこない”という課題に対し、
20・30代の非正規雇用女性をターゲットにした
新しい働き方が可能な職場。
自分の子どもと同じ空間で仕事ができたり
出勤時間や頻度を各自で設定できるように
成果報酬型を適用していたりと
個人やその周辺の環境・状況を尊重している
ことが大きな特徴である。



【発見・考察】

- ・ ガラスのアクセサリーや商品はいずれもお洒落で非常に美しかった
- ・ 働き方やその背景の精神に関しても見習う点が多く、
職業への概念が揺さぶられた。
- ・ 働く人への寄り添いがあるからこそその事業であり、他の事業にも期待感を抱いた。

小高ワーカーズベース 事業その②

【概要】

元々車で何十分も運転しないと食料品を買える場所がなかったが、そのような地域・地域の人々のためにこの店舗は開かれた。地域特有の商品を販売していたり、地元の高校生と提携した陳列を行っていたりと地域密着型のスーパーである。



【発見・考察】

- ・ 地域特有の商品を販売することは、他の店舗との差別化を図り、またリピーターや観光客の集客にも効果的だと感じた。
- ・ 地元の高校生との提携は斬新な試みだと感じると共に、彼らがアルバイト等で店舗で働けばより一層その効果もあるのではないかと思った。

小高ワーカーズベース 代表によるお話

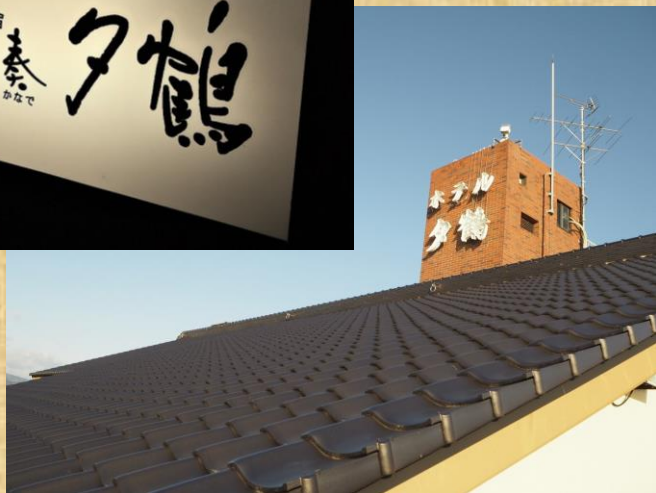
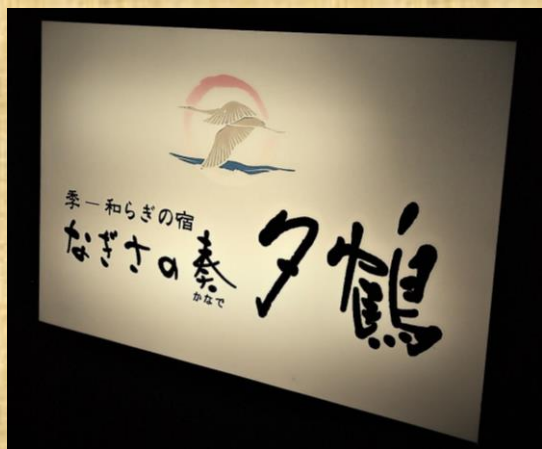
【概要】

『地域の100の課題から100のビジネスを創出する』をコンセプトに多種多様なプロジェクトを実施している、小高ワーカーズベースの代表の和田智行さんからお話を伺った。震災による課題や地方が抱える問題など様々なことが山積しているが、いずれも見方や考え方を変えることでチャンスへと姿を変えることや新しいモノサシで新しいまちづくりができることが小高地区の特徴であることを知る機会となった。最終的には、自立した地域社会の実現を目指している。

【発見・考察】

- ・ 地域や地域の方々のことが心から大切に、また携わることが大きな喜びだということが伝わってきた。
- ・ 発想の転換により道や未来は大きく開かれていくことを教えていただき、自分自身の学びにも繋がった。





ホテル「夕鶴」到着 & 夕食！



一日目終了

グループ毎に分かれて、
初日の振り返りを行いました！

2. 日 日

(一社) そうま食べる通信

食の 魅力を

【概要】

相馬地域の食材や生産者に焦点を当てた情報誌を製作している小幡広宣さんからお話を伺った。

生産者への信頼が商品への信頼に繋がるという考えのもとで、生産現場を伝えることを重視していたり、首都圏でのイベントを開催することで様々な層への広報を実践していることを知る機会となった

【発見・考察】

- ・地域の復興を目指して利益ではなく、地域が本当に好きという思いで活躍されている人がいることを知った。
- ・やりたいという思いを持ち、なおかつできる人ができることをすること、を基本としているとのことだったが、製作や復興を問わず、広く多くのことへと通ずる大切にしたい考え方だと感じた。

和田観光苺組合苺狩り体験

美

【概要】

複数の種類の苺をお腹いっぱい食べ、福島の魅力をもっと1つ感じる機会だった。美味しい苺の見分け方も教えていただき、楽しい空間となった。



【発見・考察】

- ・実際に美味しい苺を食べ、生産者の岩本さんのお話を伺うことができ、福島が自分にとって近い存在になった。
- ・自然と笑顔の溢れる時間と空間になったのはもちろんのこと、思い出しても素敵な経験をさせていただいたと感じる。ただ、楽しいだけではなく考えることも多く、非常に意義深い体験となった。



福島県庁で報告会を行いました！
2日間で感じた福島の魅力
を振り返ると共に、
その広報の方法について4グループから
それぞれ素敵な提案がありました。

全日程終了！

コラッセふくしまで
お土産を買いました！
最後に改めて福島の
魅力を感じました。
お菓子も伝統工芸品も
素敵でした！

福島のおいしいお米・魚・苺.....

「安全から安心へ」

これが最終目標！！！！

その前に

福島の食は安全であり、
安心できるものだと学びました！
みんなに安心して食べてほしい！

データのさらなる発信や
人との繋がり構築が
「安心」には大切ではないか

まだ不安が払拭されていないかな.....
心の底から美味しく食べてほしい！

「ふくしまを近くに。」

これが最終目標への
第一歩！目標の1つ！

対象→福島に興味のある人もない人も全ての人！

利益や社会関係にとらわれず自由に活動でき、
様々なコミュニティに属している
大学生だからこそ
全ての人を対象にできる！

会社として取り組む場合、
利益のことを考慮に入れると、
興味のある人のみを対象とする方が合理的であり、
また興味のない人を動かすにはエネルギーが必要。
興味のない人にまで魅力が伝わらない
ケースが多い.....

あきらめません！！！！



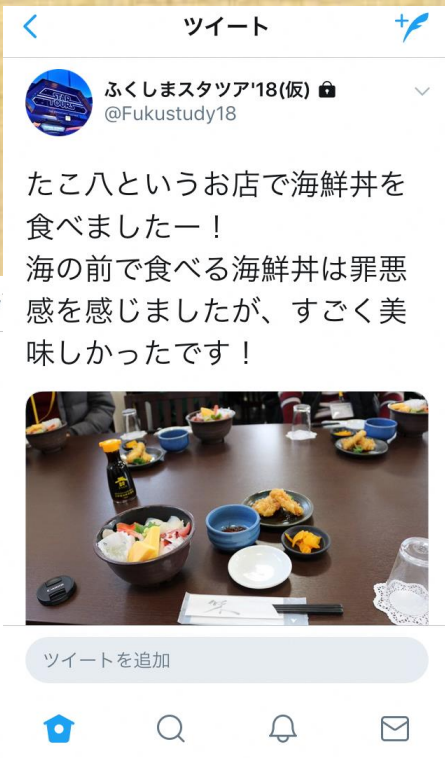
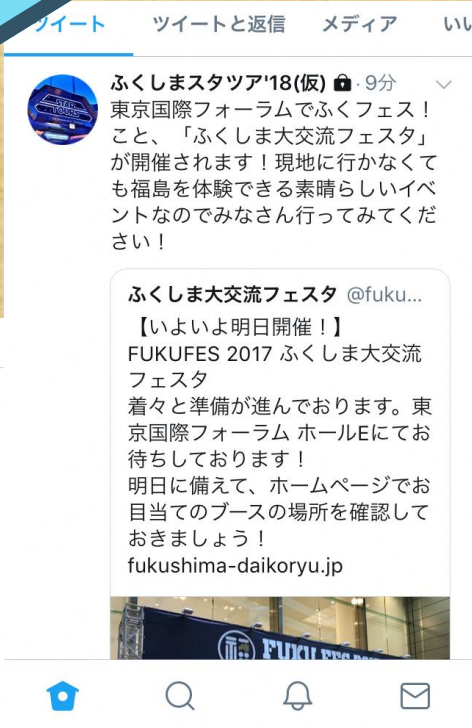
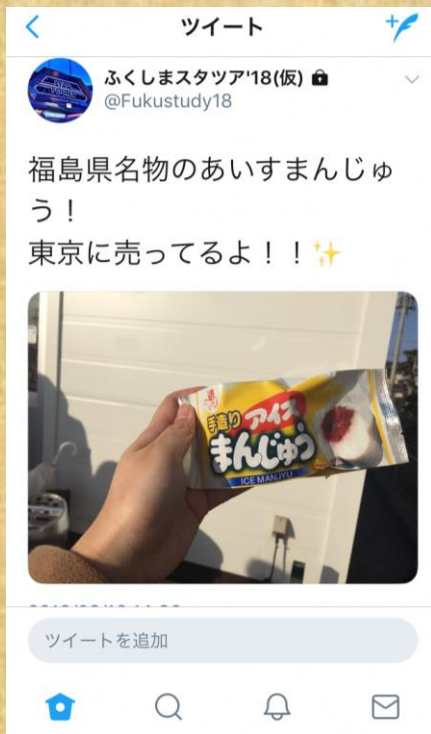
Twitter

目標達成の
ためには
Twitterによ
る広報が
効果的で
ある!!!

Twitterを選んだ理由

- ユーザー数が多いため、**影響力**が高い
- 投稿および閲覧が**容易&手軽**
- リツイート等による**拡散力**がある
- 画像や動画で惹きつけられる

ツイートの例！



実際に福島県に行って
体験したことを報告！

数々のツイートにより、
私たちの周りから福島県に興味を持って
もらえるのではないかと考えました。
私たちが自らイベントや福島に主体的に
足を運び、興味を持ってくれた友人等を
巻き込んでいこうと考えています！

福島県外で体験できる福島県に関する事柄
(福島県や東北がテーマのイベント情報や福
島県産の農作物の購入) を日常的にシェア！

ふくしまスタツアのメンバーへ ～さらなる提案～

2日間を共にして、福島について学び感じた29人は1つのチームです！
一人ひとりがもっと福島についての情報に対してアンテナを張り、チーム内で共有しましょう！
個々人の情報収集・情報発信よりも拡散力が何十倍にもなります！

実際に！

LINEグループを作成して、東京で開催された福島のイベント（2月17日開催の復興応援・復興フォーラム2018 in 東京）を共有しました！

これからも！

福島県に関するイベントやスーパーの福島県産の商品など些細なことであっても共有して、実際に福島に対しての意識の変化を感じた私たちが核となって周りの人の意識を変化させていきましょう！

全体の感想

来て、見て、感じることで初めて分かることがたくさんあり、より多くの人に福島に来てほしいと思いました。

特に、食に関しては福島が力を入れて安心してもらえるよう取り組んでいるものであり、福島だからこそ描くことのできる未来の姿に期待しています。

自分の想像以上に復旧は日常を取り戻している方々がいるのは驚きでした。一方で、フレコンバッグが積まれていたり、バリケードが張り巡らされた帰宅困難区域の様子を見ると、復興はまだ現在進行系と分かりました。また、地方創生の課題も一緒に考えながら挑み続ける方々の活動やそのお話は新鮮で興味深かったです。

実際に福島県に行って「震災から7年」と聞き、もうそんなに経ったのかというのが正直な感想でした。しかし、復興のために働いてきた方々のお話を聞いて、現地の方々は本当に長い7年間を歩んだのだなと改めて実感しました。震災時に生まれたばかりの子どもたちが今ではランドセルを持って学校に登校するようになる程の長い期間で、福島の方々はかつての故郷を取り戻すだけでなく、より良い街へと発展させるために私達では簡単に語ることができない努力をされてきたことを学びました。

震災を通して様々な困難を経験した

『福島だからこそ描くことのできる未来』

があることを身を以て体験できました。

その『福島だからこそ』の魅力を

『大学生だからこそ』できる手段で伝えていきます。